

さいたま市立浦和博物館館報

VOL. 36-1

あかんさす

通号 第 94 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

特別展「さいたま市内の貝塚—土に埋もれた海の記憶—」 の開催について

今、地球の温暖化による海面の上昇が問題になっていますが、今から6,000年ほど前の縄文時代前期には、海面は現在よりずっと高く、さいたま市の低地にも海が入り込んでいました。今回の特別展は、この時代の人々の生活の跡である貝塚に焦点をあて、その出土品等から当時の人々の生活を紹介します。なお、展示期間は10月6日(土)から12月9日(日)までで、その後さいたま市立岩槻郷土資料館でも12月22日(土)から平成20年2月3日(日)まで巡回展として開催します。

展示の構成は、1、貝塚とは 2、市内の貝塚の特徴 3、市内の代表的な貝塚 4、貝塚からみつけるもの 5、貝塚から分かることの5部です。

最初の〔1、貝塚とは〕で、「海岸線と主な貝塚」という地図のパネルで当時の海岸線と貝塚を表示し、ケースの中に市内の各貝塚から出土した貝殻を展示します(写真1参照)。キャプションは「貝塚とは」と「縄文海進」の2つを掲示し、貝塚のイメージと貝塚ができた原因の縄文海進について説明します。

キャプション「貝塚とは」の概要は、

『「縄文人のゴミ捨て場」、一般に貝塚を一言で言うところの味気ない言葉になってしまいます。もちろん間違いではありませんが、貝塚は現代の私たちに実はいろいろな情報を与えてくれる貴重な歴史遺産なのです。いろいろな情報とは、例えば貝殻や鳥獣骨・魚骨などから当時の食べ物、環境、気候などが、また壊れた土器や石器・骨角器

から当時の道具や使用年代(時期)などが、埋葬された人骨からは縄文人の体格、特徴、年齢などが分かります。これらを知ることで、当時の人々の生活や集団のあり方までが徐々にではありますが明らかになってきました。』

次にキャプション「縄文海進」の概要は、

『関東平野の最奥部の貝塚は、栃木県藤岡町にある藤岡貝塚(篠山貝塚)です。ここからは、多くの貝とともに約6000年前の縄文時代前期の土器が見つかることから、この時期が東京湾の海岸線が最も深く入り込んでいたことが解ります。こここの貝は、海水と真水が混じる水域に棲むヤマトシジミが主であり、別にカキやハイガイが含まれています。この貝塚は、現在の東京湾から約70kmも奥地に入っています。いかに、東京湾の海水が関東平野の谷に沿って平野内部に深く入り込み、東京湾が広がっていたか解ります。これを縄文海進といい、この湾を奥東京湾といいます。』

次の〔2、市内の貝塚の特徴〕では、市内の72箇所の貝塚の地図(別図参照)と、それらの貝塚の一覧表(別表参照)を併記した一枚の大型パネルと、大宮台地を中心とした縄文海進時の2枚の地図にそれぞれ縄文時代早期・前期と中期・後期の貝塚を記載した分布図を壁面に、そして、ケース内には貝塚出土の貝殻等を展示しています。

キャプション「市内の貝塚の特徴」の概要は、『海岸近くに住んだ縄文人が、海から採った貝殻などを使わなくなった住居跡に捨てたものが層のように積もって貝塚を形成したのです。ですから、

■ 目 次 ■

特別展「さいたま市内の貝塚—土に埋もれた海の記憶—」の開催について……………	1
行事カレンダー・日誌抄……………	4



太田窪貝塚の3枚の写真を見ると解るように、貝殻などを取り去ると竪穴住居の跡が出てきます。

さいたま市内の貝塚で、シジミ（河口付近でとれるヤマトシジミと海でとれるオキシジミがあります）、ハマグリ、カキ、アサリ、アワビなどが見つかっています。魚ではタイ（クロダイとマダイという種類）、イワシ、アジ、ボラ、スズキ、キス、ハゼ、エイ、ウナギ、コイ、ウグイの背骨など一部分ですが見つかっています。タイの一種のクロダイなどは、体の長さが40cmくらいあったようです。以上のように、市内の貝塚からは海で

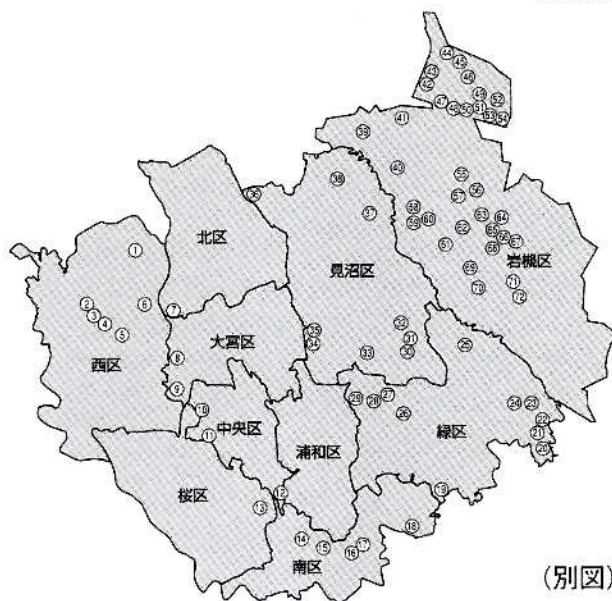
とれるものと川でとれるものとの両方が見つかっています。次に動物は、イノシシ、ニホンジカ、タヌキ、ネズミ、モグラ、キジそしてヘビが見つかっています。しかし、他に見つかっていないからといって食べていなかったわけではなく、長い間土に埋まっていた腐ってなくなってしまうものがあります。木で作った道具やドングリなどがそうです。クマやキツネ、クジラやマグロもさいたま市の貝塚では見つかっていませんが、たまたま見つかっていないだけかもしれません。全国的にみると、土の状況(成分や水分)によって、腐りき

さいたま市内の貝塚

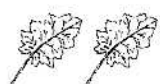
区名	遺跡名(所在地)	時期
西区	1 天王遺跡(清河寺)	前期
	2 C-42号遺跡(指扇)	前期
	3 C-43号遺跡(指扇)	前期
	4 琵琶島貝塚(指扇)【新屋敷貝塚・下郷貝塚】	前期
	5 五味貝戸貝塚(指扇)【指扇貝塚】	早期
	6 C-66号遺跡(三橋6丁目)	前期
北区	7 下加南遺跡(日進1丁目)【下加貝塚】	早期
大宮区	8 並木貝塚(三橋2丁目)【おしゃもじ様の貝塚】	後期
	9 側ヶ谷戸貝塚(三橋4丁目)	前期
中央区	10 円阿弥貝塚(円阿弥4丁目)	前期
	11 苗塚遺跡(八王子3丁目、桜丘1丁目)	前期
	12 大戸貝塚(大戸1丁目)	前期
桜区	13 西堀貝塚(西堀8丁目)	前期
南区	14 別所真福寺貝塚(別所2丁目)	前期
	15 白幡貝塚(白幡1丁目)	前期
	16 大谷場貝塚(南本町1丁目)	前期
	17 大谷場東貝塚(南本町1丁目)	前期
	18 太田窪貝塚(太田窪)	前期
	緑区	19 井沼方南遺跡(井沼方、東浦和2丁目)
20 南方遺跡(大門)		後期
21 們谷遺跡(大門)		中期
22 大門貝塚(大門)		後期
23 貝殻坂貝塚(東大門1丁目)		後期
24 東裏西遺跡(大門)		前期
25 代山貝塚(代山)		前期
26 馬場小室山遺跡(馬場1・2丁目、松木2・3丁目、三室)		早期
27 北宿遺跡(三室)		早期
28 大古里遺跡(三室)		前期
29 山崎貝塚(三室)		前期
見沼区	30 原山貝塚(片柳)	前期
	31 八雲貝塚(染谷2・3丁目)【染谷貝塚】	早期
	32 A-21号遺跡(染谷2・3丁目)	前期
	33 篠山遺跡(御蔵)	早期
	34 中川貝塚(中川)	前期
	35 南中丸下高井遺跡(南中丸)	前期
	36 高台山遺跡(東大宮3丁目)	中期
	37 宮ヶ谷塔貝塚(宮ヶ谷塔、宮ヶ谷塔3・4丁目)	前期
	38 貝崎貝塚(深作3丁目)【深作貝塚】	前期
	岩槻区	39 平林寺西遺跡(平林寺)
40 箕輪遺跡(箕輪)		早期
41 掛貝塚(掛)		前期
42 羽鳥山貝塚(古ヶ場2丁目)		前期
43 古ヶ場貝塚(古ヶ場)		前期
44 貝塚貝塚(鹿室)		前期
45 裏慈恩寺遺跡(裏慈恩寺)		後期
46 入山高地貝塚(慈恩寺)		前期

区名	遺跡名(所在地)	時期
岩槻区	47 上野貝塚(上野)	前期
	48 諏訪山貝塚(諏訪4丁目)	前期
	49 表慈恩寺東貝塚(表慈恩寺)	前期
	50 桜山貝塚(諏訪3丁目、表慈恩寺)	前期
	51 内子貝塚(徳力)	前期
	52 徳力東遺跡(徳力)	前期
	53 南遺跡(諏訪1丁目)	前期
	54 花積貝塚(表慈恩寺)	前期
	55 岩槻城跡(本丸1丁目)	前期
	56 岩槻城跡(太田3丁目)	前期
	57 太田貝塚(太田1丁目)	前期
	58 加倉浄国寺境内遺跡(加倉1丁目)	前期
	59 加倉洞雲寺境内遺跡(加倉4丁目)	前期
	60 加倉貝塚(加倉4丁目)	前期
	61 柏崎貝塚(柏崎)	前期
	62 真福寺貝塚(城南3丁目)	後期
	63 木曾良貝塚(府内2丁目)	前期
	64 村国貝塚(村国)	前期
	65 飯塚北貝塚(飯塚)	前期
	66 飯塚貝塚(飯塚)	前期
	67 飯塚南貝塚(飯塚)	前期
	68 南下新井番場北遺跡(南下新井)	前期
69 浮谷貝塚(浮谷)	前期	
70 諏山貝塚(浮谷)	前期	
71 黒谷貝塚(黒谷)	前期	
72 黒谷貝塚前遺跡(黒谷・野孫)	前期	

(別表)



(別図)



らずに見つかるドングリや植物、縄文クッキーがあり、それらを食べたり作ったりしていたことも分かっています。さいたま市でも、これらのものが今後の発掘調査で見つかるかもしれないのです。』

〔3、市内の代表的な貝塚〕では、市内の31箇所の貝塚を写真と地図と出土した土器などで展示しており（写真2参照）、今回の展示の中では最もスペースを割いた部分です。全体に関するキャプションは無く、各貝塚に対する短いキャプションを添えて説明しています。

〔4、貝塚から見つかるもの〕は、一般の見学者の興味を引くところと思われます。このコーナーの最初のケースに、発掘された当時の丸木舟を展示しています（写真3参照）。残念ながら一艘そのままというわけにはいかず、長さ3分の1ほどのものです。しかし、丸木舟の雰囲気は充分伝わってきます。次のケースには、側ヶ谷戸貝塚と山崎貝塚から出土したイノシシの頭骨、太田窪貝塚出土のシカの角などが展示されています。特にイノシシの頭骨は埋葬されたものと考えられているもので、今回の展示でもメインになるものです（写真4参照）。他には、魚骨、獣骨などと写真を展示しています。

「貝塚から見つかるもの」のキャプションの概要は、

「土は普通酸性なので、土に埋まったものは時間がたつと溶けてしまうのですが、貝塚では多量の貝の石灰分のために骨は溶けずに残ります。ここに埋められた様々なもの、貝殻だけでなく、鳥や獣や魚を食べたあとの骨、木の実の皮、壊れた土器、石器、骨角器、人の遺体や埋められた動物など、貝塚という縄文人の生活の痕跡ゆえに当時の生活が推測されるのです。食べ物は加熱されているのか、狩をしたのはいつか、例えば角のあるシカなら秋から冬です。また、動物の骨の傷からどのような道具を使って仕留めたのか、そして人間の骨なら縄文人の特徴がわかります。」

最後の〔5、貝塚から分かること〕は、今回の展示の総括になる部分です。キャプションも最も量の多いところ。このコーナーの壁にはシカの全体骨格の図を掲示し、その下のケースの中に真福寺貝塚から出土したシカの骨を展示し、各シカの骨がどの部位に該当するか分かるように対比して展示しています。また、発掘時の写真も掲



写真1

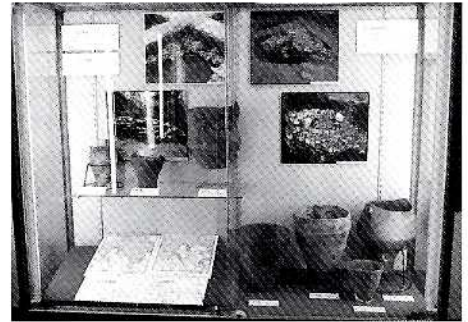


写真2

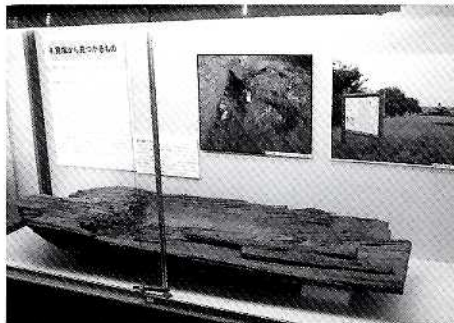


写真3

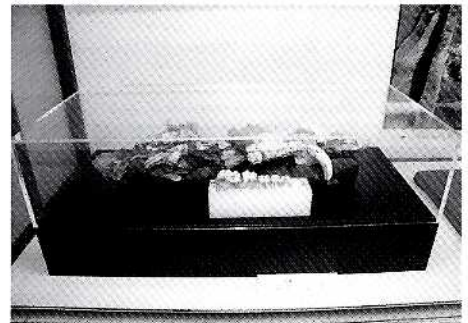


写真4

示しています。他に、「縄文人の食べ物カレンダー」のパネルによって、当時の人々の年間を通しての食べ物の移り変わりを展示しています。そのパネルの下のケースには、鎌が刺さった動物の骨、骨角器、貝刃、石皿、石斧、石鏃などや、当時の人々の食料の一つクルミなどを展示しています。

「貝塚から分かること」のキャプションの結論部分は、

『縄文時代の文化を支えていたものは何でしょうか。それは食の安定と考えられます。当時から春夏秋冬の四季があり、そこに生活する動植物もそれに適応していたので、縄文人も同じように動植物の生活に適応しました。ここに展示したのは、縄文時代一般の食生活を中心とした1年のカレンダーです。縄文人は、食料採集を中心とした1年の生活のサイクルを持っていたので、当時の自然の恵みを十分に享受して、森や海の幸を得て豊かな生活、文化を育んでいました。自分の集落内だけでなく、近隣集落とも友好関係にあり、集団内での不平等の回避と共同労働、共同祭祀を採用したことが、縄文時代を豊かな社会とした大きな理由です。なによりも、縄文人の骨を調べると、武器で傷ついた痕がありません。これは、縄文時代の社会が、人どうしの争いの少ない平和な社会だったからです。その点でも縄文時代は、この後の弥生時代以降とは大きく異なります。』

このように、食生活の安定と平和な文化の交流が、縄文文化を自然経済のなかで高度な社会に発展させた推進力でしょう。ですから、青森県の三内丸山遺跡のように約5500年前から約4000年前までの約1500年も続く集落を形成できたのでしょう。』

以上が、特別展「さいたま市内の貝塚一土に埋もれた海の記憶」の概略です。 (M)



*****: **行事カレンダー** (平成19年10月～平成20年3月の予定) 開館時間 9時～16時30分 *****

☆特別展「さいたま市内の貝塚
—土に埋もれた海の記憶—」

会期 10月6日(土)から12月9日(日)まで
内容 市内に点在する縄文時代の貝塚に焦点をあて、それらのうち代表的なものを取り上げながら、当時の人々がどのようなところに住み、どのようなものを食べていたのかを市内の出土品で紹介します。

☆特別展関連文化講座
「縄文時代の貝塚
—人と動物たちとのかかわりを考える—」

会期 12月2日(日) 14時から15時30分まで
講師 金子浩昌 氏(東京国立博物館客員研究員)
参加費 無料
内容 はるかな昔、奥東京湾地帯には豊かな自然が育まれており、私たちの間で

もある縄文人と動物たちが生きた証として貝塚をつくりましたが、縄文人は動物たちをともに生きる仲間と考えていました。貝塚を手がかりにそれらの事を話します。

申し込み方法など詳しくは当館まで

☆企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」

会期 12月15日(土)から平成20年4月13日(日)まで
内容 今の小学生の父母・祖父母が、子供のころに使った道具の変化を展示。小学3年生の社会科昔の暮らし参考

☆定例探鳥会〈毎月第3日曜日開催〉

(雨天中止)

会期 10月21日(日)・11月18日(日)・12月16日(日)
1月20日(日)・2月17日(日)・3月16日(日)
9時から12時(9時に当館集合)
参加費 小・中学生50円、高校生以上100円

日誌抄 (平成19年4月から9月まで)

- 4/1(日) 団体見学1団体
- 4/15(日) 定例探鳥会・企画展「ちょっと昔の暮らしの道具展」終了
- 4/16(月)～19(木)展示替えによる休館(企画展→企画展)
- 4/20(金) 企画展「ふるさとの遺産—写真で見る南区の文化財—」
- 4/26(木) 埼玉県博物館連絡協議会総会・見学会(埼玉県歴史と民俗の博物館)
- 4/28(土) 団体見学1団体
- 5/10(木) 三室小6年見学
- 5/20(日) 定例探鳥会
- 6/9(土) 親子探鳥会
- 6/14(木) 三室小2年見学
- 6/17(日) 定例探鳥会
- 7/1(日) 企画展終了
- 7/2(月)～12日(木) 展示替及び燻蒸による休館(企画展→夏休み企画展)
- 7/4(水) 第1回さいたま市博物館協議会(市立博物館)
- 7/13(金) 企画展「夏休みチャレンジ博物館」開催
- 7/15(日) 定例探鳥会・雨天中止

- 7/15(日)～8月3日(金) 博物館実習生の受け入れ(3名)
- 7/19(木) 埼玉県博物館連絡協議会前期研究会(埼玉県歴史と民俗の博物館)
- 7/24(火)～25日(水)中学生職場体験(本太中1年)
- 7/26(木)～27日(金)中学生職場体験(浦和明の星女子中3年)
- 7/26(木)～29日(日) 昔のあそび(体験教室)
- 7/28(土) おもちゃ作り(体験教室)
- 7/29(日) クイズ大会(体験教室)
- 7/31(火)～9/30日(日) 文化財さがし
- 8/11(土)、12(日) 見沼通船堀のしくみ(体験教室)
- 8/19(日) 定例探鳥会
- 9/11(火) 団体見学1団体
- 9/16(日) 定例探鳥会
- 9/27(木) 埼玉県博物館連絡協議会第1回資料取扱講習会(埼玉県立自然の博物館)
- 9/30(日) 夏休み企画展終了

さいたま市立浦和博物館館報 **あかんさす** No.94
編集・発行 さいたま市立浦和博物館
〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地
TEL・FAX 048-874-3960
発行日 平成19年9月30日
ホームページ <http://www.city.saitama.jp>
E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp

